

令和 3年 6月 1日
クリニック通信 /
NO.128 / 初夏号



【発行】

新小岩クリニック
〒124-0023
葛飾区東新小岩5-20-22
TEL 03-3694-5621
FAX 03-3694-5628

新小岩クリニック船堀
〒134-0091
江戸川区船堀4-4-24
TEL 03-3688-9901
FAX 03-3688-9973

新型コロナウイルスとこの1年

新小岩クリニック
副院長 西尾信一郎

皆様、こんにちは。昨年1月、本邦における初めての新型コロナウイルス感染者の報告がなされ、爆発的な感染拡大に伴い、様々な業界に変革がなされるようになり、早1年が経ちました。当初は“ただの風邪”と思われていたものが、感染力の強さや急速な重症化、有名人の急逝を目の当たりにし、全世界が震撼しました。治療法については、少しずつ確立されつつありますが、まだインフルエンザのような特効薬がないのが現状です。

透析を受けている患者様においては、数多くの基礎疾患を有しているケースが多く、重症化のハイリスクにあたります。そのため、感染した場合は入院治療が必要になりますが、透析とコロナ対応ができる病床は非常に数が少なく、常にひっ迫しています。診断した日に入院できることは稀で、入院施設が決まるまでは自宅待機となり、それまではいつもの透析施設で透析といった対応が余儀なくされています。透析施設においては感染を早期発見する、感染を診断した際にはできるだけ他の患者様との接触を減らす対応を行うことが非常に重要です。当院では来院前に検温を行っていただき、熱のある患者様にはPCR・抗原検査を院内でお受けいただいています。陽性の場合、他の患者様から時間・空間的に離れた場所で透析ができるように整備しています。

このような中、コロナ診療に携わる医療従事者を皮切りにコロナワクチンの予防接種が始まり、感染抑制に大きな期待が寄せられています。これまでの密回避や緊急事態宣言は、ウイルスとの接触を減らすことを目的とした、言わば守りの感染対策でした。しかし、今回のワクチン接種は積極的な免疫獲得による攻めの感染対策であり、ようやく本格的なウイルス対策が始動したという印象です。副反応や変異株への有効性の話も取り沙汰されていますが、これまで何年もかかっていたワクチン開発が、たった1年で実用化に漕ぎつけるという科学の進歩に驚嘆するばかりです。

今なお感染収束の兆しがみえず、不安な思いをされている方も多いかと思います。ワクチンの普及とともに少しずつ感染者や重症者が減少することを期待し、今しばらくは感染対策を怠らずにお過ごしいただきたいと思います。

また皆様がいつも通りの生活を取り戻し、友の会などでお元気な姿が見られることを祈念し稿を結びたいと思います。気を抜かずに頑張りましょう。



◆ BLS/ACLSの研修を受けて ◆
(一次救命処置/二次救命処置)

新小岩クリニック 看護師



昨年度、新小岩クリニックの看護師4名がBLS/ACLSの研修を受け、資格を取得しました。BLSは、一般の方でも行える心臓マッサージや人工呼吸を主とした一次救命処置です。ACLSは、医療従事者によって行われる薬剤投与、心電図・電気ショックなどの医療機器を使用した二次救命処置のことです。

BLS/ACLSの研修では、突然の心停止に対する心臓マッサージや心電図の解析・救命処置の手順について、各医療機関から集まった医療従事者とともに、座学や様々な状況に応じた演習を行い3日間に渡り学びを深めました。指導者にアドバイスを受けながら、演習を行うごとに協議・検討し、良かった点や改善すべき点を挙げ、実際の現場でも活かせる対応力を身に付けました。

透析を受けられる患者様の中には、心臓に関する既往歴をお持ちの方も多く、生命にかかわる予期せぬ急な変化も起こり得ます。その際に医師やスタッフが協力し、研修で培った知識や技術を最大限に活用して、速やかに的確な処置を実施できるように努めてまいります。



新小岩クリニック 臨床工学技士



チーム医療の一員として
求められること

昨年11月に行われた第41回透析技術認定士試験に、新小岩クリニックの臨床工学技士3名が合格しました。透析技術認定士とは、透析療法合同専門委員会が実施する認定講習会を履修後、認定試験において一定の合格基準に達した者に与えられる学会の認定資格です。看護師や臨床工学技士の国家資格を持つ者が、さらに専門性の高い技能・知識を身につけていることを証明できます。

透析技術認定士の認定資格取得後は、5年毎に更新する必要があるためそのまま継続できるわけではありません。更新することが出来ないと認定資格が失効してしまいます。講習会や学会などに積極的に参加し、新たな知識を獲得し高い技術を有する透析技能認定士であることを証明するために知識や技術を日々研磨する必要があります。

チーム医療の一員として、安心して安全な医療を確立するため、より高度な医療技術が求められます。医師や看護師、他職種と相互連携し、円滑で効果的な全人的医療を目指したいと思っております。



透析20周年

〇〇 〇〇 さん (新小岩クリニック 火組午後)

◆ご本人の談話

火組の〇〇と申します。私は人生ぎりぎりに生きています。患者のみなさん、スタッフのみなさんに助けられて生きています。私の場合、今生きていられるのは、しっかりと透析をやっているからだと思います。体力面も衰えず、本当に有りがたいことだと思います。これからも毎日楽しく生きていきたいと思っています。

◆正木院長からのお祝いのことば

透析20周年おめでとうございます。〇〇さんをご自身の体調管理にととても注意を払っておられ、それが長期透析の秘訣ではないかと思えます。これからも合併症を予防して、元気に通院を続けてください。



◆看護師からのお祝いのことば

透析20周年おめでとうございます。20年の間、元気で透析に通われているのも、〇〇さんをご自分の体を気遣い、食事管理なども努力してこられた結果だと思います。これからもお体を大切に、笑顔で頑張ってください。



透析30周年

〇〇 〇〇 さん (新小岩クリニック 月組夜間)

◆ご本人の談話

透析導入当初は不安でいっぱいでしたが、いろいろな人のおかげで30年を迎えることができました。これからも充実した日々を送られるよう自己管理をしっかりと行いつつ、生活していきたいと思っています。

◆正木院長からのお祝いのことば

透析30周年おめでとうございます。〇〇さんは、私が新小岩クリニックに赴任する前から通院されており、透析治療では先輩にあたります。今後も自己管理を継続し、さらなる長期透析を目指してください。



◆看護師からのお祝いのことば

透析30周年おめでとうございます。これまで仕事の両立など大変なことも多かったと思いますが、自己管理の良さで乗り越えてこられたのだと思います。これからも体調管理を大切にお過ごしください。



◆ 透析排水中和装置設置について ◆

新小岩クリニック船堀
事務

新小岩クリニック・新小岩クリニック船堀において、透析排水中和装置を設置いたしました。透析装置の内部洗浄には酸性やアルカリ性の薬品が使用されています。その排水を下水道に排出する場合、水素イオン濃度(pH)を下水排除基準である5以上9未満の範囲内に収める必要があります。酸性排水液が下水道に流されるとコンクリート製の下水道管が破損し、道路陥没を引き起こす場合があります。東京都下水道局の指導のもと、水質を適正に保つように中和装置の設置をいたしました。現在は中和装置を通してイオン濃度を下水排除基準に収めて排水しています。設置にあたり、駐輪・駐車スペースが狭くなりご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力をいただければ幸いです。



◆ お知らせ ◆



新小岩クリニックのホームページが、5月1日にリニューアルいたしました。当院についてのご案内はもちろんのこと、新小岩クリニック38年間の経験と実績や感染対策なども掲載しています。また、正木院長・西尾副院長のプロフィールや充実したQ&Aのページも新たに追加しました。

パソコン・スマートフォンのどちらからもアクセスできますので、ぜひご覧ください。

また、新小岩クリニック船堀のホームページも順次リニューアル予定となっております。どうぞご期待ください。

【URL】 <http://www.shinkoiwa-clinic.jp/>

【QRコード】



◆ 新型コロナワクチン ◆



新型コロナワクチンの接種がいよいよ始まりました。

今までに無かった新しいmRNAワクチンで、コロナウイルス感染症の切り札として期待されています。テレビなどでも毎日のようにワクチンに関連した様々な報道があり、接種に不安を感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？もし不安に思っていることなどがありましたら、厚生労働省のウェブサイトなどを利用し、正しい情報を得ることで、様々な情報に惑わされずに安心してワクチンを接種できるようになると思います。

また、スマートフォンのアプリを使い、ワクチン接種の記録をしたり、体調管理をすることも出来ます。わからないことがありましたら、医師や看護師にご相談ください。

ワクチンの接種が始まり、これで元の生活に戻れる道筋がついたと思った矢先に、今までより感染力が強いと思われる変異ウイルスの猛威に脅かされることになってしまいました。

ワクチンの接種が始まって、

①3密（密閉、密集、密接）を避ける

②手洗いうがいと、手指の消毒

③マスクの着用を忘れない

など…今まで通りの感染対策を続けて行きましょう。



◆ 編集後記 ◆

新型コロナウイルスが蔓延し、二度目のゴールデンウィークを迎えました。緊急事態宣言が発令され、今年も我慢の日々が続いています。外出ができない状況ですが、オンラインイベントやコンサートなど、家での時間を楽しむ選択肢が増えました。普段は行かないジャンルのコンサートをオンラインで楽しむ機会があり、コロナ禍ではありますが趣味の幅が広がりました。今後もライフスタイルの変化に対応しながら、毎日を楽しく過ごしていきたいと思ひます。



(O)